

食品リサイクルなどの先進的な環境活動が評価され、2008年4月、ユニーは業界のトップランナー企業として環境大臣に対し「エコ・ファーストの約束」をいたしました。

「エコ・ファーストの約束」を果たすために、また次世代に繋げるサステナビリティな環境への取り組み、地域社会の中で果たすべき企業の社会貢献などについて、前村哲路代表取締役社長と百瀬則子環境社会貢献部長の対談形式でお話を伺いました。



代表取締役社長 前村哲路 (左)、環境社会貢献部長 百瀬則子 (右)

なってしまう、CO₂を排出することになります。お客様が来店される時にマイバッグやエコバスケットを持参していただき、ゴミになるレジ袋を辞退していただくことが地球温暖化防止につながるのですね。

●百瀬 レジ袋を無料でお渡しすることを止め、ご入用なお客様には購入していただくことを「レジ袋有料化」として、各自治体や市民団体のみなさんと一緒に進めていきたいと考えています。

●前村 それはまさに、日本の真中にある中京圏から発信している、地域循環社会の形成ですね。この地域ではユニーがリーダーシップをとり、市民のみなさまや同業企業と一緒に進めるということで、自治体からも期待されています。有料化を導入した店舗のレジ袋辞退率は80%以上で、使用削減の効果は絶大ということが解りました。また有料レジ袋の収益金などは、地域の緑化事業など環境活動に寄付しています。

●百瀬 エコ・ファーストで約束した2012年までには、ユニー全店がレジ袋有料化になっているのではないかと期待しています。ゴミの排出全体からみれば小さな一歩ですが、地元の消費者団体をはじめ、自治会や子供会、地元NPOなど地域全体を巻き込んだ大きな協力体制が組めたことにより、次の活動展開が期待できます。



「店舗」と「製品」両面からCO₂を削減

●百瀬 来春は「エコ・ストア」第一号店の「リーフウォーク稲沢」をオープンする予定です。できるだけエネルギー使用を削減するために、コジェネレーションや壁面緑化、太陽光発電・省エネ照明のLEDなどを設置したモール型店舗です。

●前村 従来から省エネ型照明や空調設備などは取り入れていましたが、この「エコ・ストア」はさらに省エネ設備を導入し、さらにリサイクル建材や雨水利用なども取り入れた環境配慮型モールです。CO₂の削減を明確に打ち出していきます。

●百瀬 店舗だけではなく、商品でもCO₂を削減した商品を開発・販売していますね。

●前村 それは愛知万博のマスコット「モリゾー・キッコロ」のマークをつけた「ecolon」(エコオン)です。原料・製造・包装・廃棄の段階で環境に配慮していることを「第三者審査」により評価していただき、環境に配慮していることを認められた商品です。これらの商品の一部は、カーボンフットプリント(商品の材料・生産・物流・使用・廃棄までの過程で発生するCO₂の量)を計測し、表示する試みにもチャレンジしています。

●百瀬 お客様がCO₂排出量の少ない商品を選んで購入していただくことが地球温暖化防止につながり、低炭素社会が実現することが小売業の果たす役割だと考えています。お客様が商品を購入することは、「低炭素社会構築」のための投票だと思っています。ユニーの環境配慮商品がたくさんのお客様に支持され、たくさん買っていただくことが低炭素社会実現につながります。そのために私達はお客様に喜んでいただける環境配慮商品を開発し販売していくように努力します。



ユニーのもう一つの企業理念

●前村 企業の社会的責任は、環境保全活動と社会貢献だと考えています。世界中で飢餓に苦しむ人は多く、特に6秒に1名の乳幼児が飢餓が原因で亡くなっています。そうした貧しい地域や災害で飢餓に苦しんでいる人々に食糧支援をするWFP(国連世界食糧計画)の活動を応援することにしました。

●百瀬 WFPの「給食プログラム」は食糧が不足している地域で、給食を支給することで子供達が学校に行くことができるようにという支援活動ですが。

●前村 1食20円のビスケットを子供達にプレゼントすることは、子供達を飢餓から救うだけではなく、学校に行くことで読み書きや計算を学ぶチャンスを与えることとなります。ランチタイムに出かけるときに、ポケットの中にある1コインを子供達の給食のために募金する。身近なところで社会貢献できるのですから、ぜひ社員の皆さんに協力していただいて進めていきたいですね。そして、今後は更に、未来の子供達に美しい自然を残すために、循環型社会の形成や地球温暖化防止に取り組んでいきますよ。

●百瀬 先日名古屋市緑区の公園に植樹をしました。私達がこの世にいなくなっても、未来の子供達が私達の植えた木の木陰で遊ぶ。これも次世代へのすてきなプレゼントじゃないでしょうか。お客様にユニーのこうした取り組みを理解していただき、一緒に進めていきたいのです。

●前村 それが私達にとって、一番うれしいことです。

●百瀬 本日はありがとうございました。